

6月の予定

2024 June

●こども ●保護者 ●職員 ●子育て支援 ●地域

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
		● 応急訓練 ● 園庭開放	● ふれあい散歩 ● 園庭開放	● ● ● 移動動物園		
9	10	11	12	13	14	15
		● ぶどう読み聞かせ ● 園庭開放	● ふれあい散歩 ● 園庭開放	● 4,5歳遠足 ● いちごの会		
16	17	18	19	20	21	22
		● 誕生会 ● 園庭開放	● 避難訓練 ● 園庭開放	● さくらんぼの会	4,5歳遠足予備日	
23/30	24	25	26	27	28	29
	● 0歳健診	● 園庭開放	● ふれあい散歩 ● 園庭開放	● 歯科検診 ● 育児講座 ● 離乳食講習会		保育園フェア

● 応急訓練・・・心肺蘇生法や AED の使い方等を消防署の方に指導していただきます。

● ● ● 移動動物園・・・ポニーやうさぎ、モルモットや羊たちが遊びに来ます。近隣の子育て世代の方々や近隣の高齢の方々にも声をかけています。

動物アレルギーのお子さんは担任までお知らせください。



お知らせ

- ・細野あかりが入籍し、小針あかりになりました。
- ・園ではだれもが安心して暮らせるまちへ～地域共生社会を目指して～(5/15 広報いなぎ参照)活動として、地域交流やふれあい散歩を行っています。この散歩に参加していただいている方が大丸地区会館を管理されているということもあり、子どもがトイレに行きたくなった場合はトイレを貸していただけるようになりました。
- ・ふれあい散歩の日に雨が降ってしまった時は園内でふれあい遊びを行っています。
- ・地域の子育て支援として、育児講座や集いを行っています。育休中の方も参加できますので、玄関先の掲示物や HP 等をご覧ください。
- ・新園舎のガラス戸はワイヤーが入っているため、交換しても数ヶ月後にはヒビが入っていました。6月8日(土)、割れないガラスに交換します。
- ・7月 13 日(土)10 時より卒園児保護者和泉氏による安全講習会を今年度も行います。和泉氏は自衛隊に勤めており、「赤十字救急法・幼児安全法指導員」「赤十字防災ボランティアリーダー」の資格を持たれています。乳幼児の病気やケガ、その対応等について一緒に学びましょう。詳細は追って報告します。

「稲城」の由来

5月10日、青渭神社禰宜の森谷雅美さんがぶどう組さんに「稲城」の名前の由来を教えてくださいました。

明治時代、奚疑塾(けいぎじゅく)を開いた窪全亮(くぼぜんりょう)先生が良い米がたくさん取れるという理由から「稲穂」と「稲城」を候補にあげ、最終的に「稲城」になったと言われています。



奚疑塾を立ち上げた窪先生は貧しい人からはお金をとらなかったり、女性の身分が低い時代に女性が通うことができたりと、自己研鑽の重視など自らの学びによる人間成長を期待したそうです。

「奚疑」とは「これはなんぞや」「これで良いのかと疑って調べる」という意味があるそうです。現在、ネット情報は簡単に手に入りますがフェイクも多く、これからの社会を見極めるためには情報に踊らされず、真実なのかどうか「なぜ」「どうして」という疑問が必要。スマホで洗脳されてしまっている子ども達はとても危険な環境下にあり、私たち大人が行えることは何だろうと森谷さんと深い話になりました。ちなみに「奚疑公園」は窪先生のゆかりの地であることからその名がついたということです。

実体験を積む、不思議に感じたり、自ら調べてみたりという人間の本能を尊重するということが園が大切にしている理念にも通じると深く感心しました。



菌ちゃん先生

5月19日、多摩南生活クラブ生協まち稲城主催の「菌ちゃん先生講演会 in 稲城」に行ってきました。菌ちゃん先生こと吉田氏の話はとても楽しく、中でも衝撃だったのは虫食い野菜は弱い(腐敗が起こりやすい)から虫がつくということでした。畑の虫や腐敗型の病原菌は元気な野菜より死に近いものを好み、それらを食べて土に還す分解者の役割を果たします。農薬をかけないから虫がくるのが当たり前、虫が美味しく食べているものは安全だから仕方ない…と、思っていましたよね。しかし、健康な土をつくれれば健康な野菜が育ち、健康な野菜には虫が近づかないということです。目から鱗状態でした。まずは梅雨時期を避けながら、園庭のプランターで土づくりに挑戦していこうと思います。

この菌ちゃん先生、畑以外の話に花が咲き、現代人についても熱く語っていました。「自然は偽物がない」「人から言われた事、上が言ったことを鵜呑みにしていいのか」「ポケットと生きている時代ではない」と。講演会を運営されたFさん、Sさん、お疲れ様でした。

情報化社会の今、自分の意思を強く意識しなければ、あらぬ方向に持っていかれます。情報だけでその気になるのではなく「これは何?」「どうするの?」「どうやって作るの?」と一生懸命に思考力・探求心を働かせる経験や「自分で考え、自分の身体をよく使い、達成感を味わう」経験がいかに大切か、わかる時代がやってくることでしょう。

(石野 百合江)